

# これで解決！ 道徳科授業



先生の「どうしよう」を自信に変える**20のヒント**

## 道徳科の「」を解決

### Q1

道徳科の授業で、いちばん大切なことは？

**A** 先生も「生徒とともに」よりよく生きる方法を考えたり、話し合ったりすることです！

教科化以降、「考え、議論する」道徳へと変わりました。先生は答えを教え導く立場ではなく、生徒とともに悩むパートナーです。

「あなたは思う？」「自分はどうしていきたい？」と問いかけ、「そういう考えもあるのか」という気づきを得たり、答えが見つからない悩みを共有したりすることで、お互いの信頼が深まります。そして、そのような道徳授業は、学級の経営にもよい影響を与えてくれます。



### Q2

道徳科の1年間は、どんな流れで進むの？

**A** 大きな流れとして、下の図のようなサイクルをたどります！



## Q3

### 道徳科の「授業びらき」は何をすればよい？

**A** 「道徳はみんなで考え、話し合う時間」だと、明るく宣言しましょう！

「ただ一つの正解はない。納得できる答えを見つけるために考えることが大事」だと生徒に伝え、「まちがいはないからだいじょうぶ」と安心して本音を語れる環境を整えます。

堅苦しい説明より「みんながよりよく生きるにはどうしたらいいか。それを一緒に考えよう」と呼びかけることで、生徒は「道徳＝説教」という警戒心を解き、自分ごととして考え始めます。教科書の最初にある学び方のページも活用し、1年間のワクワクする学びの方向性を共有しましょう。



## Q4

### 授業前の準備、指導案・発問づくりのポイントとは？

**A** 指導書を参考にしつつ、発問はクラスの状況に合わせてアレンジしましょう！

指導書や前年の記録を参考に、学習指導案を作成します。特に「導入」は大切に。ICTを活用し、写真(挿絵)をスライドで用意しておくとういでしょう。また、発問が多いと一つあたりにかけられる時間がどうしても短くなります。中心発問を含め二つ程度に絞り、話し合いの時間を確保しましょう。

発問を生徒の実態に合わせた言葉へ言いかえることも重要です。先生自身の言葉で問うことで、生徒は問題を自分ごとと捉え、議論が活発になります。



## Q5

### 教材研究の時間が十分にとれないときはどうする？

**A** 注力ポイントを見極め、ICTやチームの力を活用しましょう！

自身の業務内容を見直し、優先順位を整理します。AIや音声入力、校務支援システムなどICTを活用して仕事を効率化し、時間を捻出しましょう。指導書の「朱書編」は、教材の要点を短時間でつかむのに適しています。また、「ローテーション道徳」のような、担当する教材だけを集中して研究する仕組みをとっている学校もあります。

ツールの活用と組織的な分業が、持続可能な授業準備の鍵です。



## Q6

道徳の授業に自信がもてない……。  
どうすればよい？

**A** 「教えなきゃ」と気負わずに、「一緒に考えよう」というスタンスで！

「指導案どおりに進めなければ」と肩に力を入れる必要はありません。予定調和ではないライブ感のある対話を楽しんでみてはどうでしょう。

「今日はどんな新しい考えに出会えるかな？」と目の前の生徒たちへの好奇心をもてるとよいですね。道徳の時間は、先生が正解を授ける場ではなく、「生徒の考えを教えてもらう時間」と捉えてみてください。

先生が楽しんでいる姿は生徒にも伝わり、教室の空気を柔らかくします。



## Q7

教科書以外の教材を使ってもよい？

**A** 先生が「これを伝えたい！」と熱量をもてる教材こそが、生徒の心を動かします！

学習指導要領でも「生徒が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用」が求められています。生徒がひきつけられる授業は、先生自身がその教材に感動し、主体的に扱っているからこそ生まれます。

まずは、自分の「推し」の人物や心を動かされた話題を選び、それに基づいた内容項目と発問を一つ考えてみましょう。いきなり自作することが難しければ、書籍などで紹介されている先行実践を「追実践(真似)」してみることをおすすめします。なお、教材を年間指導計画から変更する際には、学年などで話し合い、校長の了解を得るようにしましょう。



### 特別な配慮が必要な生徒への対応

それぞれの「歩み」に寄り添い、ともに考える準備を

column

家庭環境の違いやこれまでの経験(身近な人との別れや被災の経験がある等)、外国にルーツがあることや、多様な性自認など、生徒の特性は一人一人異なっています。そして、道徳で考えていくテーマの中には、特定の生徒にとって非常にセンシティブな内容になるものもあります。

さまざまな事情をもつ生徒にとって、道徳の授業がつらいものになってしまうように、授業の前に丁寧な心の架け橋を築いておくことが大切です。

#### 事前に伝え、選択肢を用意

影響が懸念される生徒がいる場合には、配慮を尽くす必要があります。本人や保護者へ「今度、こういう教材で道徳の授業を行います」と伝えて、理解を得るようにしましょう。

「もしつらくなったら、途中で席を外してもだいじょうぶだよ」と、安心できる選択肢を用意しておくのもよいですね。

#### あえて、向き合う

必要な配慮を尽くしたうえで、「あえて、みんなでき向き合う」とは、生徒が困難を乗り越える力(レジリエンス)を育んだり、クラス全体が多様性を尊重する視点を深めたりする貴重な機会にもなります。先生が生徒に寄り添い、ともに考えていこうとするその姿勢が、教室にいちばんの安心感をもたらします。



## Q8

### 効果的な導入のために何をすればよい？

**A** 「事前アンケート」は、生徒を授業に引き込む一手です！

生徒は先生の言葉以上に「友達がどう考えているか」に強い関心があります。そこで、事前にICTを活用して、教材に関連した生徒の生活経験や考えについてアンケートを実施することをおすすめします。授業の冒頭で、アンケート結果を大きく提示し、「みんなの考えはこうだよ」と示すと、生徒は自分の意見と友達の意見を比べることができ、ぐっと授業に引き込まれます。

また、教材の挿絵やタイトルを使って「どういう意味だろう」となど問うのも効果があります。長い教材は朝読書の時間などを活用して、事前に読ませたり聞かせたりしておくともスムーズに授業に入れてよいですね。



## Q9

### 板書することに追われてしまう。 どうすればよい？

**A** 板書は思考の軌跡を整理する作業ですが、  
全てを書く必要はありません！

発言のキーワードだけを拾い「余白」を残すことで、生徒の思考を広げます。板書の際には、常に生徒に意識を向けられるように「斜め立ち」「ちらちら見る」を心がけましょう。机間指導中に「いい考えだね！」と声をかけ、本人に書いてもらえば、先生が教室全体を見渡す余裕も生まれます。

事前に板書計画をしっかり立てておけば、板書は「追われる作業」から「授業の楽しみ」に変わるかもしれませんよ。



## Q10

### 想定外の発言への対応は？

**A** 計画通り進めることよりも、その言葉を起点に  
「一緒に授業をつくる」意識をもちましょう！

授業計画通りの展開に無理に誘導してしまうと、生徒は「先生は自分たちの言葉より、自分がしたい授業のほうが大事なんだな」と敏感に見えます。たとえねらいとは異なる意見でも、「どうしてそう思ったの？」と問い返して対話を重ねましょう。そうすることで「〇〇のことを△△の視点から考えたんだね」と多角的にねらいに迫ることができるかもしれません。

「みんなはどう思う？」と周囲に投げかけたり、多様な考えを整理したりする先生の柔軟な対応力が、深い学びにつながります。



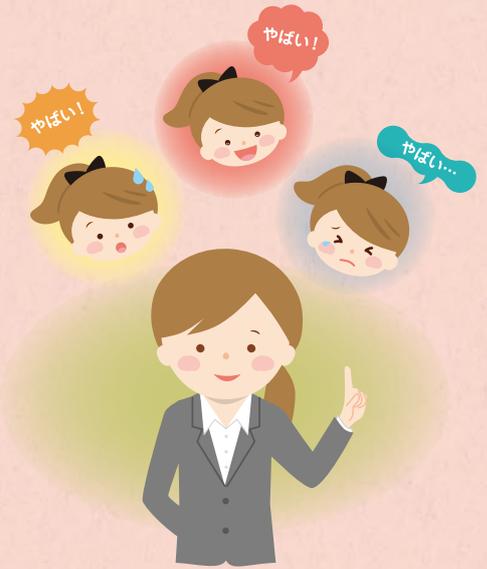
## Q11

何をきいても発言が「やばい」の一言で終わってしまう生徒には？

**A** 第一声の「やばい」は大いに受け止めましょう！

そのうえで、「今の『やばい』、〇〇さんはどんな意味で使ったと思う？」と周囲に投げかけます。ペアで話し合う時間を設けてもいいでしょう。出された意見（驚き、感動、悲しみなど）を板書で整理し、本人に「〇〇さんの心に近いのはどれ？」と問います。生徒自身が言葉の意味を検討することで思考が深まります。

単純な言葉に込められた思いを拾い上げ、「友達の言葉をこんなに深く考えられる皆さんは素敵ですね」と、解釈しようとした周囲の生徒もともに認めていきましょう。



## Q12

書くことが苦手でいつも時間切れになる生徒には？

**A** 「書きたいことがある」ことを、まずは本気で褒めましょう！

時間切れになるのは、深く考えている証拠です。「いつも」一生懸命向き合っている姿勢はすばらしいものです。道徳科では文章の完成度よりも思考の過程を評価します。

書くことが苦手な生徒には、タブレット端末の音声入力やキーボード入力を活用させたり、「続きは家で書いてもいいよ」とゆとりを持たせたりするのも有効です。また、「あの続き、何を書こうとしていたの？」と聞き取り、その思いを受け止めることで、生徒の自己肯定感を高めることができます。



## Q13

ICT活用が苦手。  
授業に取り入れなくてはいけない？

**A** 無理して使う必要はありませんが、生徒の学びを深める便利なツールとして試してみましょう！

資料配布、動画活用、意見共有やアンケートなど、効果的な場面で少しずつ使ってみましょう。操作に不安があっても、「I(いつも)C(ちょっと)T(トライ)」の精神で、同僚や生徒に聞きながら徐々に慣れていけばいいでしょう。「これどうやるの？」と聞けば、生徒は喜んで助けてくれます。

操作に手間どる「間」は生徒たちの思考の時間にもなる、と考えて前向きに取り組んでみてはどうでしょう。



## Q14

役割演技がぎこちない。  
何か工夫したほうがよい？

**A** 「体験を通して気づく」のが目的。「やってみた」ことを認めましょう！

思春期の生徒にとって人前での演技は照れくさいものです。最初は棒読みでかまいません。役割演技は技能の優劣を問うものではありませんが、慣れてきたら「相手の目を見て言おう」「台本を見ずに」などアドバイスしてみましょう。また、「代表者が演じて他の生徒は観客になる」ことで、全員が要領をつかみやすくなります。

重要なのは演技の上手さではなく、役を演じて言葉を発した時に生まれる心の揺れを通して理解を深めること。生徒が熱心に演技に取り組めるのは、学級経営が安定していることの表れでもあります。



## Q15

「説話」では、どんなことを話せばよい？

**A** 「説話」で必ずしも「よい話」をする必要はありません！

授業のねらいに関連した、失敗などの体験談や心に残っていることなど、先生の間味や伝わる飾らない話は、生徒の心に響き、授業の印象を深めます。生徒が先生について知ることにもつながり、信頼関係を築く力になります。授業計画を立てる中で先生自身が思い起こしたものであれば、きっと生徒の思考を深める呼び水となるでしょう。

終末に話されることの多い説話ですが、説話ではない授業の終わり方も多様にあります。



### より深い学びにするために

「生徒の発言は全て宝物、金言である」ことを忘れずに

### column

生徒の発言を積極的に受け止めて、認め、励ますことで、教室が安心して語り合える環境になります。

#### 注意したい言葉かけ

「今の意見は授業のめあてに合っていますか」「いちばん大切なことに気づいたね」などと先生の望むような展開へ誘導したり、「今は自分のことを振り返る時間だから、教材から離れて考えて」と生徒の思考を切り離したりする言葉かけは、生徒の安心感を損なうNG例であり、注意が必要です。

#### 静かに自分と向き合う学びもある

発言が少ないからといって、学びが深まっていないとは限りません。心に重く響く教材ならば、言葉が出なくなり、一人でじっくり向き合う時間こそが深い学びになることもあります。

発言の「量」だけで判断せず、生徒の心に響いているかを見極めることが大切です。



## Q16

授業の「ねらい」に迫ることができたのか  
不安……どうすればよい？

**A** 全員を画一的な結論に導く必要はありません。  
生徒の多様な考えを受け止めましょう！

先生自身がねらいを明確にもつことは大切ですが、生徒はそれぞれの生活体験に基づいて考えるため、学びとる内容に違いが出るのは当然です。「ねらいを生徒に推測させ、答えさせてしまう(先生の顔をうかがわせる)授業」は避けましょう。ねらいを定めて構成した授業なら、全く無関係なゴールに向かうことは稀です。もし議論が広がっても、先生が生徒の思考を整理し、本時のねらいと関連づければよいのです。準備を尽くしたなら、自信をもって生徒から出される新たな考えとの出会いを楽しみましょう。



## Q17

授業後、ワークシートへのコメント記入に  
時間がかかる。よい方法は？

**A** 短いコメントやちょっとした工夫で、生徒の思考を  
刺激することができます！

全員に毎回長文のコメントを返すのは困難です。短時間でできる二つの方法をご紹介します。①ショートコメント：SNSのスタンプのように「いいね！」「深い！」「多面的！」など一言でポジティブに評価します。定型文の画像ファイルをスタンプ感覚で貼れば手軽です。②アンダーライン：生徒が思いを込めた部分に線を引きます。「なぜここに線が引かれたか考えてごらん」と伝えれば、振り返りを深めるきっかけになります。

無理なく続けられる方法で、生徒との心のキャッチボールを楽しみましょう。



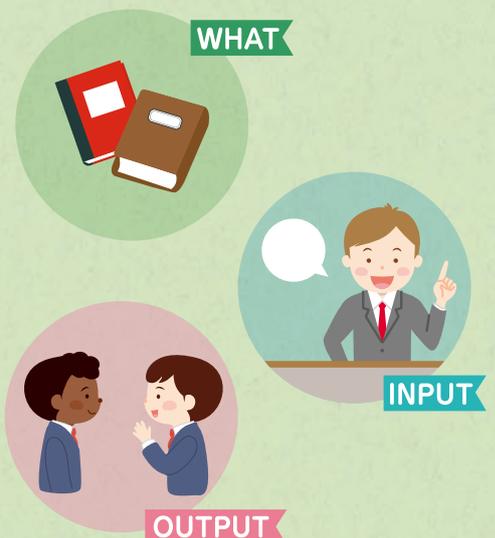
## Q18

「授業が盛り上がらない」と感じたとき、  
どこを見直せばよい？

**A** 「WHAT(教材)」「INPUT(発問・展開)」「OUTPUT  
(対話・活動)」の三つの視点で授業を再点検！

①教材に「考える価値がある魅力的な部分」があるかを見ぬくこと。②思考を揺さぶる発問や展開の工夫。③ICT等を活用し協働的な学びの場を設けること。なにより、先生も生徒も主体的になることが鍵です。

「しなくてはいけない」という義務感や、「先生の求める答えを探そう」という生徒の意識があつては、授業は楽しくなりません。先生自身が教材をおもしろがり、生徒とともに考えようとする姿勢が、活発な学びを生み出します。



## Q19

生徒の変化を継続的に把握するには  
どうすればよい？

**A** 発言や記述の変容から、「思考の深まり」や  
「視野の広がり」に着目しましょう！

道徳性のような内面を把握すること、しかもその変化を継続的に捉えるのは難しいことです。迷った時は、次の方法を試してみてください。①ワークシートや発言の比較：当初の片面的な見方が、友達との対話を経て多面的な見方へ発展しているかを確認します。②生徒自身の自己評価：学期などのまとまりで振り返りを行い、自身の変容を自覚させます。③相互評価の活用：「友達のよい発言」を見つける活動を行い、他者の価値観を受け入れようとする姿勢に着目します。



## Q20

評価の根拠になる情報がさまざまある。  
どうすればよい？

**A** 評価資料に「メリハリ」をつけ、情報を整理しましょう！

評価のための情報は発言、ワークシート、振り返りシートなど多岐にわたります。効率的な方法は、資料に優先順位をつけることです。例えば、「学期末の振り返りシートを最重視し、毎時のワークシートは補助的に見る」「授業中の顕著な発言はメモに残すが、基本は教師の記憶をもとにする」といった具合です。

重点を置く資料を明確にすることで、全ての情報を網羅するのではなく、資料の中から効率よく「それぞれの輝き」をすくい取る工夫をしましょう。



### 執筆協力



もうりしんじ  
毛利慎治先生

東京都世田谷区立用賀中学校校長。  
東京都中学校道徳教育研究会研究部副部長、全日本中学校道徳教育研究会関東甲信越中学校道徳教育研究会事務局次長。  
「考え、議論する道徳」を推進し、道徳授業の充実が学級経営に通じると説く。ローテーション道徳やAI・ICT活用など、現場の負担を減らしつつ授業の質を高める具体的な先進的な実践を提案している。



ももさきたけし  
桃崎剛寿先生

熊本県熊本市立五霊中学校教諭(初任者研修拠点校指導教員)。  
熊本県・熊本市公立中学校教諭、教育委員会指導主事、熊本市公立中学校教頭、校長を歴任。前熊本県中学校道徳教育研究会会長。前熊本県中学校数学教育研究会会長。教育サークル「道徳のチカラ」GM。『中学校編 っておきの道徳授業』シリーズ(編著、日本標準)など、著書多数。

これで解決！ 道徳科授業



先生の「どうしよう」を自信に変える20のヒント

2026(令和8)年4月発行

 教育出版株式会社 教育DX編集本部 道徳科編集部

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館 TEL: 03-5579-6278(代表)

本誌はウェブサイトからもご覧いただけます。▶



本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。